

【引地川】（「ひきじ - がわ」「ひきち - かわ」「ひきぢ - がわ」）

大和市の上草柳(カミツウヤキ)にある湧水池(現・泉の森公園)を源とし、藤沢市内を南下、鵜沼海岸に注ぐ延長21.3kmの二級河川。名の由来には諸説があるが、台地からの出口の稲荷付近で、砂丘を断ち切って河道を付け替えたことによる”引いてきた川”という説が有力。

【引地川親水公園】

引地川に沿った親水公園には、湿性植物園や藤棚、ツツジの丘、桜並木などがあり、市民の憩いの場として親しまれている。

湿性植物園:木道等が整備され、湿地の自然観察をすることができる藤沢市内最大の湿性草原。

【成就院】（高野山真言宗）

文和年間(1352～56)山名伊豆守が開山。相模国準八十八箇所三十四番。古くは宝染寺と呼ばれ、大庭神社別当をしていたという。本尊は愛染明王、境内には弘法大師像が建つ。

【大庭神社】

祭神 神皇産霊神(配祀神)菅原道真公、大庭三郎影親公
創建年代不詳。大庭天神社とも呼ばれる大庭の総鎮守。大庭景親が大庭城を築いた際に移した天満宮が維新のときに大庭神社と名を変えたともいわれている。配祀神・大庭三郎影親公は、安政6年(1777)10月に神祇伯従二位資顕王に依って勧請、同・菅原道真公は、天明3年(1783)秋、配祀されたという。
大庭の由来は、広大な平坦地の意味である大庭に因む。

【船地藏】

船形の台座に乗る地藏菩薩、江戸時代中期以前の造立、水害から水田を守る水神の意が籠められているという。

【大庭神社旧跡】（熊野神社）

大庭神社から、引地川をはさんだ反対川の丘にあり、御霊社又は権現社とも呼ばれている。御祭神は熊野久須比命。平安末に熊野神が勧請され、地主神たる大庭神社は、忘れ去られたものと思われるが、江戸時代ここが延喜式内社の大庭社旧跡とされた。